

稲作だより

第 1 号

育苗準備編

令和4年3月11日発行

山形おいしさ極める！米づくりプロジェクト

最上地域本部

最上総合支庁農業技術普及課

Tel 29-1329 (稲作担当)

春作業の準備は計画的に！ 種子浸漬は丁寧に！

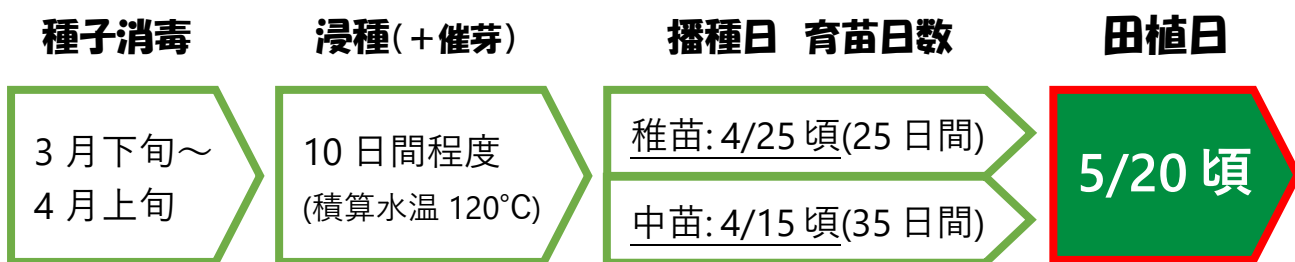
大雪だった影響で、水田やその周辺にはまだ多くの雪が残っています。育苗場所の除雪や融雪剤散布などの対策も行いながら、計画的に春作業を進め、今年の稲作をスタートしましょう。

◎融雪剤の散布

育苗予定地等において、育苗作業時期まで融雪が見込めない場合は、早めの除雪作業や、融雪剤、融雪促進効果のある堆肥等を早めに散布しましょう。

◎田植日から逆算して計画的な育苗を

苗の種類ごと（稚苗、中苗）に適正な育苗日数が異なるため、田植日から逆算し、計画的に作業日程を設定しましょう。



田植日から逆算した育苗作業計画の例

“大きな穂をつける”初期莖数を確保するためには、活着の良い苗づくりが欠かせません。健苗（ずんぐりしていて老化していない）育成のポイントを改めて見直し、適期の田植えとしましょう。

◎播種前作業のポイント

1 塩水選

塩水の比重（うるち 1.13、もち 1.08）を確認して充実した粳を選別します。また、塩水選後は、種粳をきれいな水で洗いましょう。

2 種子消毒 ～使用する水、網袋や容器等は清潔なものを！～

◎ 薬剤処理

薬液の温度が低いと効果が劣る場合があります。10℃以上の水温を確保しましょう。

県内で、プロクロラズ剤（商品名：スポルタック乳剤、スポルタックスターナSE）耐性ばか苗病菌が確認されています。他の薬剤を使用しましょう。

◎ 温湯消毒（うるち品種のみ ※もち品種は発芽率が低下する可能性あり）

保温機能がある専用機械を使用する場合は、「58℃ 20分」または「60℃ 15分」浸漬が目安になります。

※塩水選後、温湯消毒まで1時間以上経過する場合は、いったん粃水分を15%以下まで乾燥させてから処理しましょう。

3 浸種・催芽 ～低水温・長期間の浸種は厳禁！～

◎ 浸種は 水温 10～15℃、積算水温 100～120℃ が目安です。

特に、浸種開始時の水温が低すぎると発芽率が低下します。浸種開始時の水温が10℃以上になるように、水温が低い場合は温水を加える等の対応を行いましょう。

水温が15℃を超えるとばか苗病が発生しやすくなるため、直射日光を避け水温が上がりすぎないようにしましょう。

品種別 浸種時間の目安

品 種	積算水温	浸種日数の目安
はえぬき、雪若丸、つや姫、あきたこまち、ひとめぼれ、コシヒカリ、山形95号	120℃	10℃12日間
ササニシキ、ヒメノモチ	100℃	10℃10日間

◎ 催芽は 水温 30～32℃、20時間浸漬 が目安です。ハト胸状態を必ず確認してから終了しましょう。 ※ヒメノモチは伸びやすいので特に注意を！

◎ 施肥設計等

近年、水田土壌のpHが低下しており、当課が調査している水田の中にもpHが4.0前後の圃場がみられます（適正なpHは5.5～6.0）。今一度、土づくりに対する取り組みを見直しましょう。

**令和4年の農作業が始まります。
農作業は、あせらず！気もまず！慎重に！**

